

2階の閲覧バルコニーは勾配天井の一番高い場所で煙たまりになりやすい。30m以上の距離があり先は行き止まり2方向避難が確保されていない。30mの場所に仕切りが必要だが、それもスルーされる状態でさらに避難困難。手摺りは1, 1mの通常の高さで、1階への書籍落下防止柵として作られてはいない。先に重そうな脚立が見えるが、この上での作業も危険が予想され、落下防止バーを超えて書籍を取り出す。この場所には冷房設備は無い整備する予定も無い。？



1階の図書館部分蔦屋書店のエリアに比べ、奥に押し込められた状態で迷路状況を呈している。2階からの非難はこの場所(左写真)通ることになるが、狭い上に柱など障害物もあり、書籍の落下も想定する必要がある。本棚のコーナーなどに、逃げ遅れの子どもたちが居れば発見困難である。書架も書籍も可燃物である事から、このルートを避難通路にすることが妥当か基本的な検討が必要である。

